茨城県南立教会

2019年度

公開講演会

◆◆ 演題 ◆◆

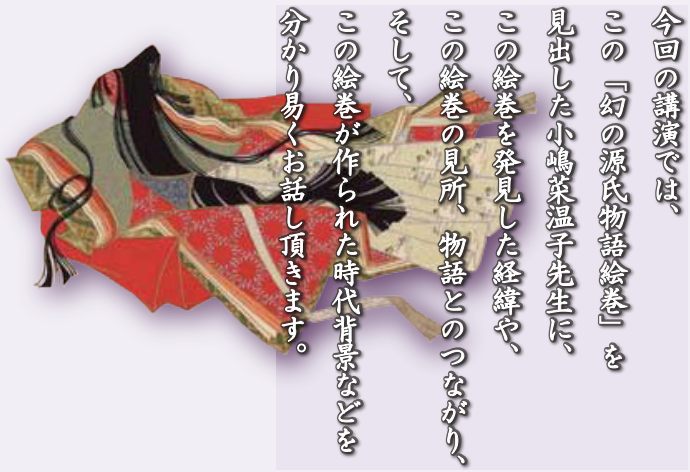
「幻の源氏物語絵巻」をもとめて

講師　小嶋菜温子（なおこ）氏　（立教大学名誉教授、立正大学教授）

平安時代中葉に、紫式部の書いた『源氏物語』の優美な世界を絵画化した《源氏物語絵巻》は源氏物語の各帖から数場面を選んで絵画化し、その絵に対応する本文である「詞書（ことばがき）」と「絵」を交互に配置する形式で作られている。その歴史は十二世紀中盤成立の国宝「源氏物語絵巻」の存在が物語るように、すでに平安末期から始まり現代にいたる、まさに時空を超えて連綿と続いている。

その源氏絵の歴史の中に、江戸時代初期に制作された、質・量ともにひときわ秀でた源氏絵がある。豪華で大部の造作だけではなく、源氏物語五十四帖すべての絵画化を目指したものであり、その場面数の多さは他に類を見ないものである。詞書は物語本文を省略なしに掲げており、さらに、場面選択にみる物語理解が独自であることにも関心が高まっている。ただし、この長大な源氏絵は全巻が一つにまとまって保存されているのではなく幾つにも分割されて、すべての源氏絵の存在がまだ確認されていない。その成立事情もはっきりしていない。それゆえに”幻の源氏物語絵巻”と呼ばれているものであるが、2006年第十帖「賢木（さかき）」が断簡（文書の断片）としてニューヨークで発見された。

カバー図版；幻の源氏物語絵巻 賢木巻断簡
NYパーク財団所蔵



2019年4月20日（土）

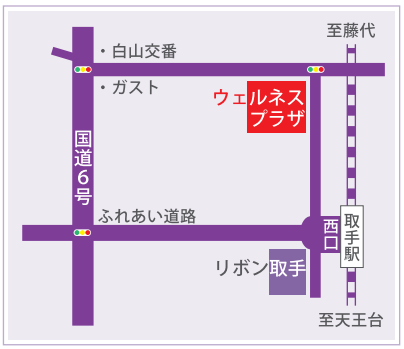
14：00～15：40（開場 13：30）

取手ウェルネスプラザ 多目的ホール

どなたでも受講できます

入場無料

定員 300名



主催／茨城県南立教会　後援／立教大学・立教大学校友会・取手市・取手市教育委員会